

【大森山周辺】

大森山の頂上には山津見神社が祀られている。「干ばつになれば村人は嶺に登って雨乞いをする」と奥相志に述べられているようだ。

山頂まで登山道があり、誰でも気楽に登れるので、一度は登ってみてはどうでしょう。

春になると、登山道脇の落ち葉の中にギンリョウソウの姿を見ることができるようです。



(大森山／北側(右)に湿地が広がる)



(大森山・山津見神社)

・大森山北側湿地の生物

(ヒヌマイトトンボ)

大森山の北側と環境公園の間に、汽水域の湿地がありヨシ原が広がっています。ヨシ原には多くの水生生物や昆虫が生息し、小鳥たちが騒いでいる楽しい場所です。

東日本大震災前のヨシ原には汽水域に住む「ヒヌマイトトンボ」が生息していました。ヒヌマイトトンボは体長3センチメートルほどのとても小さなトンボで、絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。種福島県の野生動植物保護条例によって捕獲が禁止されています。



(ヒヌマイトトンボ)

はげっ子倶楽部では震災後も毎年生息調査をしていますが、震災から7年たった現在も、残念ながら生息は確認されていません。

(野鳥など)

相馬では珍しく、大森山周辺には春になるとカッコウが渡ってきます。遠くまで届く大きな声で鳴いています。

初夏になるとオオヨシキリが大きな声で騒がしくさえずっています。オオヨシキリは1回に4～6個の卵産むそうです。

カッコウはこのオオヨシキリの巣に自分の卵を産み(托卵)雛をオオヨシキリに育てさせることがあるそうです。



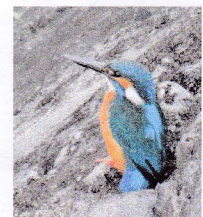
(オオヨシキリの巣)

運が良ければ青い宝石ともいわれるカワセミを見ることができますよ。

(カニ類)

大森山の登山道や北側湿地を歩いていると、足元でカサコソと音がして黒や赤いものが動き回る。アカテガニやクロベンケイガニの散歩だ。

山麓の南側には、干潮時には泥干潟が広がる。ここは松川浦の最西端だ。泥干潟では目の長いヤマトオサガニが忙しく這いまわり、手を振って踊っているよ。



(カワセミ)



(アカテガニ)



(クロベンケイガニ)



(ヤマトオサガニ)



(アシハラガニ)